

プーク人形劇場企画製作 世界の人形劇シリーズ

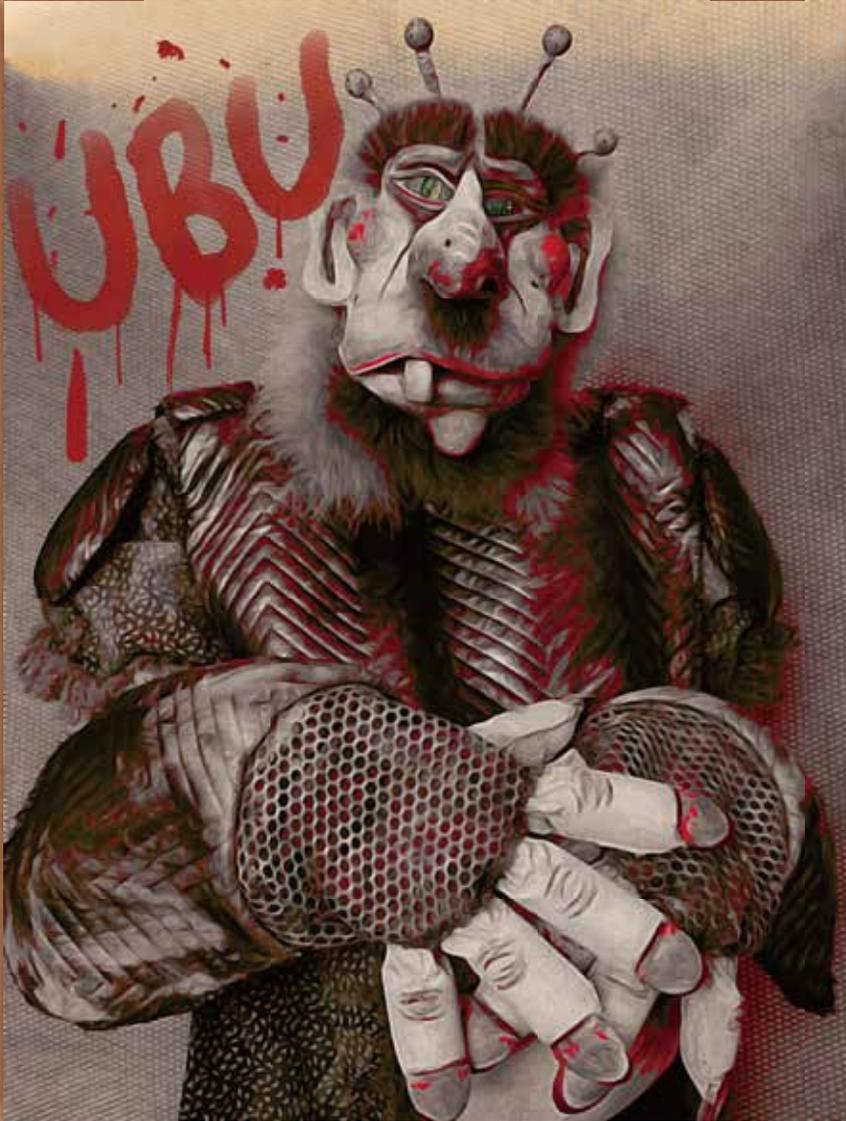
ユビュ王

“UBU”

Stuffed Puppet Theatre (オランダ)

原作/アルフレッド・ジャリ

脚本、演出、美術、出演/ネヴィル・トランター



新宿
南口

プーク人形劇場



助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂活性化))
独立行政法人日本芸術文化振興会、オランダ王国大使館/Embassy of the Kingdom of the Netherlands
後援：南新宿町会、南新宿商店会、西新宿一丁目町会、西新宿一丁目商店街振興組合、NPO 法人 日本ウニマ、
日本人形劇人協会、一般社団法人全国専門人形劇団協議会、こくみん共済 coop ホール/スペース・ゼロ



Letter from Neville

「ユビュ王」を書いた時、アルフレッド・ジャリはそれが演劇史上の名作になるとは思いもなかっただろう。シェイクスピアのマクベスとマクベス夫人を彷彿とさせる暴力と不条理の物語。この人殺し夫婦に触発され、強欲で悪意に満ちたユビュ親父とユビュおっ母というジャリ独自のキャラクターが生まれた。

そのとんでもないキャラクターと権力にのし上がろうとする非道な行いによって「ユビュ王」は有名になった。そして戯曲として書かれた初めての不条理劇でもあった。

ロシア軍やポーランド軍も出て、登場人物が多いので舞台化が難しいが、現在でも多くの国で様々な言語で上演されている。俳優劇が主で、人形劇になることはあまりない。だから私はユビュをやるかと決めた。

「ユビュ王」という作品が人形劇に最適だと、私自身が知りたかったし見せたかった。なぜ最適なのか。この世界で生き残ろうとあがく人間の、不条理でグロテスクな側面を見せて具体化して視覚化することが、人形ならできるからだ。

私は6年前に初めて「ユビュ王」を、リトアニア国立人形劇場のために大人向けで演出した。人形遣いは4人、つまり手が8本だったので、大勢の登場人物を同時に舞台上に出すことができた。このリトアニア語版ユビュは、リトアニアの劇場レパートリーのひとつになった。コロナ禍のあいだに、私は自分の一人芝居としてユビュを英語で仕込んだ。私の場合は手がふたつかないの（相手のウィムが小道具を上げている手は見えるかもしれないが）、芝居を根本的に作り直す必要があった。

この「ユビュ王」を日本の観客にお目にかけるのを楽しんでいる。それを可能にしてくれたブークの人々に感謝して。

ネヴィル・トランター



illustration:namiko



スタッフ・パペット・シアター (オランダ)

主宰: ネヴィル・トランター / オーストラリア生まれ。
1976年、Stuffed Puppet Theatre を設立。
1978年、アムステルダムでの演劇祭 "Festival of

Fools" への参加を機にオランダへ移住。1997年からはウィム・シントヴァストが参加し、技術や事務サポートの他、時折舞台にも登場する。

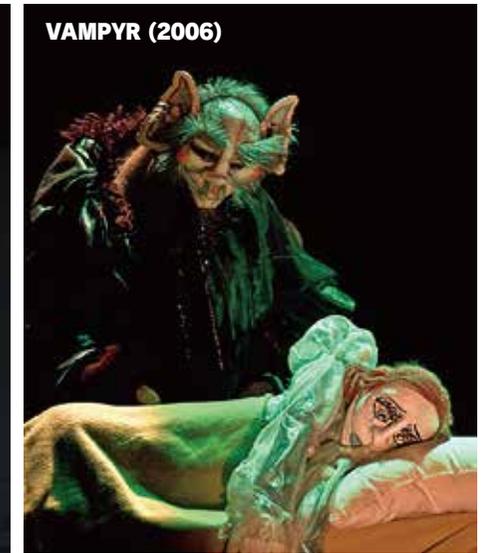
劇団を旗揚げ以来、一貫して現代の社会問題、人間模様を彼独自の視点で描き、作・演出・出演と独り舞台を次々と発表し続けている。欧州のみならず世界中で活躍を続け、圧倒的な演技力で観客を魅了している。

教育者としても秀でた才能を持ち、欧州各国で人形劇専攻科の講師を務める。スイスやフランスにて人形表現を取り入れたオペラ作品も演出。演出家・俳優・研究者として幅広く活躍している。

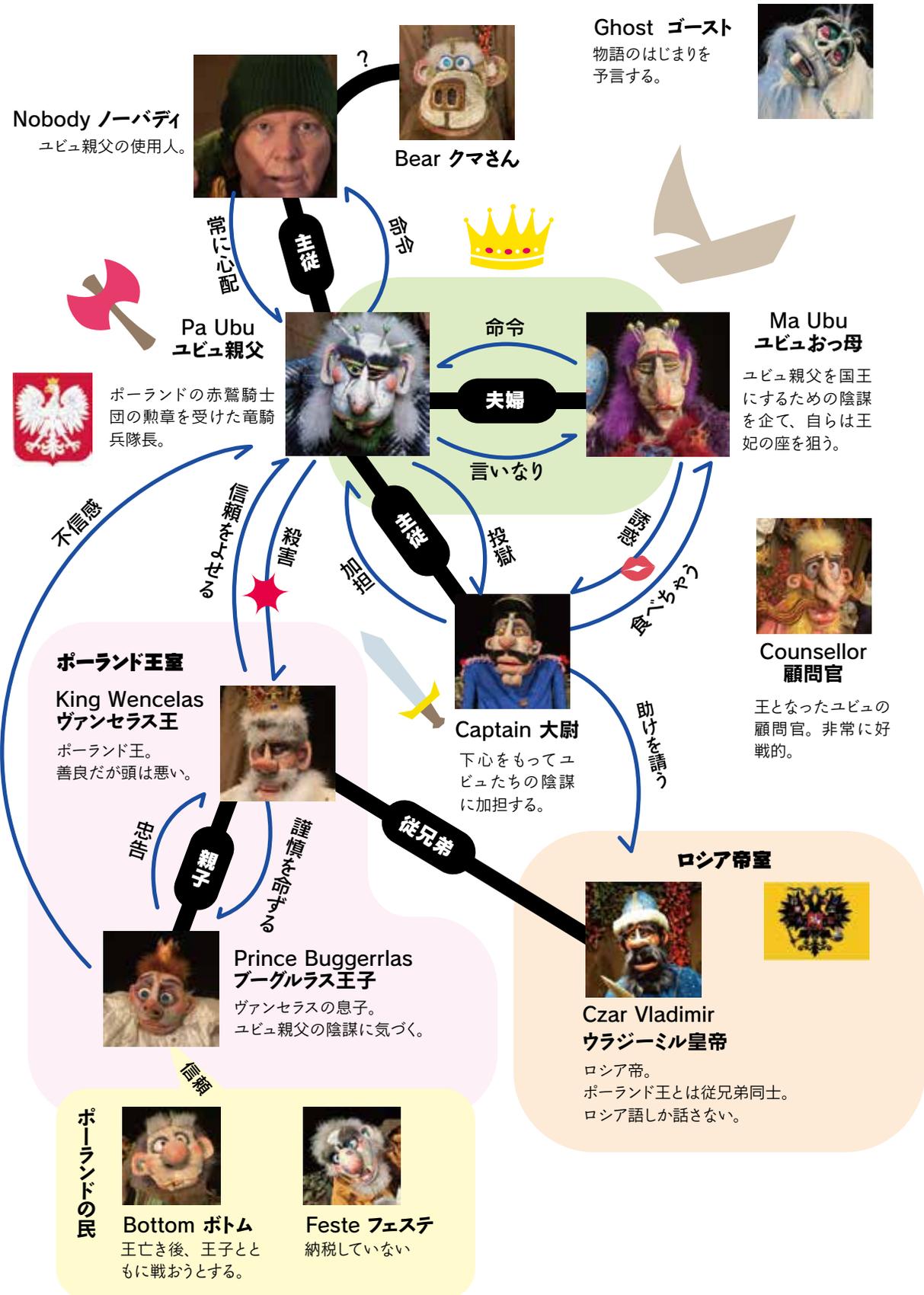
本公演が彼の俳優としての最後のステージとなるが、演出家・教育者としての活動は今後も各国で続けてゆく。

www.stuffedpuppet.nl

Tranter's puppetry



Character Correlations



Synopsis

ゴーストの予言 — 「ユビュは王になる!」

竜騎兵隊長のユビュ親父は、下劣な愚か者。
強欲で傲慢な妻ユビュおっ母は、権力を手にすべく
ポーランド王を殺害するようユビュに迫る。

妻は大尉を誘惑。
一方でユビュは大尉に「リトアニア公爵」の地位を与え
ると約束し、王殺害の企てに引き入れる。

ユビュはポーランド王に謁見し、信頼を得る。
王子ブーグルラスは、ユビュを信頼せぬよう進言するが、
聞き入れられず、王はユビュに殺害されてしまう。

ポーランド王宮を乗っ取ったユビュ夫妻。
妻は大尉を功労者としてたたえようとするが、ユビュは大尉
を投獄する。

ポーランドの民は、王子を擁立しユビュ新王制に対抗する
意思を固める。

大尉はモスクワへ逃げ延び、ロシア帝に謁見。ポーランド
を侵攻してユビュを倒すよう進言、自らの剣を差し出し、ブー
グルラスを王にすることを約束する。

大尉の脱獄とロシアの侵攻に気づいたユビュは逃げようと
するが、強気な妻は開戦を迫る。
ユビュは尻込みしつつも、イカれた顧問官にもそのかさ
れ、ついにロシア軍に宣戦布告する。

ロシア軍の後ろ盾を得たブーグルラス王子は、王宮に侵
攻、ポーランドを奪還する。
大尉は死に、Nobodyはいつのまにか姿を消す。
ブーグルラスはポーランド王となった。

ユビュ夫婦は、新天地をめざし船出する。

そして Nobody は・・・



Review

Seen on April 5, 2024, Queering Puppets Festival, Pleintheater, Amsterdam
Written in the Theaterkrant by Javier López Piñón 11 april 2024

Source / <https://www.theaterkrant.nl/recensie/ubu/stuffed-puppet-theatre-neville-tranter/>

ネヴィル・トランター、警告とともに別れを告げる

クエアリング・パペット・フェスティバルで公演した「ユビュ王」（アルフレッド・ジャリ原作、トランター改作・脚色）で、ネヴィル・トランターはオランダでの人形劇俳優としてのキャリアを終えました。彼は少なくとももう1回は国際公演を行います、願わくばもっと行われてほしい。というのは、この巨匠はまだ健在で、観客を芝居に惹きつける力を全く失っていないからです。

緑とオレンジのアクセントカラーを散りばめた黄麻布を背景に、トランターは、表現豊かな12体の人形を操ります。ジャリが既にユビュ王にマクベスの要素を取り入れていますが、トランターはそこにさらに付け加えています。ユビュ王とマクベス、この両劇作は、絶対的な権力の追求という共通テーマの下にまとめられます。それは、このトランターの改作 / 脚色では、法王のように台座に飾られたポーランド王国の王冠によって、象徴されています。

物語は、魔女の予言や王の殺害と、大まかマクベスの筋に沿って展開されます。しかし最後は、ジャリの原作にあるように、ユビュ王と妃は脱走、トランターに因んで彼の母国、オーストラリア、新大陸「ダウンアンダー」へと出航するのです。

演者はトランターのみ。トランターは、彼の力強い存在感と通る声で、それぞれの登場人物を、どぎつ鋭い台詞できっちりと描写してゆきます。余分な台詞は一言もなく、間が言葉のように語りかけます。そしてトランターが人形に耳を傾けさせる仕方は、他に類を見ないものです。

現在の好戦的な時代、様々な時事が背景で反響し合っています。トランターが権力欲の強いユビュ王をでぶっちょで文句ばかり言う人物像、不誠実で不貞な妻を持つと設定にしたことは、物語を、目立たないけれども紛れもなく今に通じるものになっています。そうすると、この芝居で引退するという彼の選択は、偶然とは思えません。

ジャリの脚本から抜粋された人形たち、将軍、王位継承者という二つのテーマも、短い印象的なシーンで回想されています。

偉大な戦いは、黄麻布の壁の後ろにシンプルに、それに合った音響効果と共に、効果的に描かれています。なかでもとりわけ美しく逆説的なのは、唯一の人形遣いであるトランター自身が、人形に従属すべきなのに、人形が、いかに彼の操作に依存しているか、というところでしょう。ユビュ王の召使でもあり、ノーボディと呼ばれているこの人形使いが、次第に人形たちの権力争いを繰り広げる中心人物になっていきます。そしてノーボディを支えるのは、主人の独り言を支持したり抗議したりする忠実なベットだけです。ノーボディは疑いなく永遠の犠牲者であり、紛争に巻き込まれるこのドラマの主役です。

トランターの対話の操り方には不気味な普通さがあります。それは時に酒場や市場で誰かの会話を立ち聞きしてるかのようです。肝心のラストシーンでは、権力や支配を追求するものは、あらゆる状況、いかなる段階でも頭在し得る事が、無言で示されています。このユビュ王は、ハンナ・アーレントが提唱した「悪の凡庸性」を演劇的に描いています。すなわち、私たちは本能にのみ駆られて動く人形を見ているのです。その点で、人形たちは、普通の人々に最も似ているのかもしれない。

ハビエル・ロベス・ピノン

オペラ・演劇の舞台監督。初期のオペラとコンテンポラリーに重点を置く。アムステルダム演劇学校舞台監督科およびオランダ国立オペラアカデミーオペラ公演修士課程で教鞭を執り、退職したのち現在、シアター・クラント勤務。専門はパロック演技様式と異文化交流。

翻訳協力 Iku Rooks 中井（英ケンブリッジ在住 ブーク OG）



“UBU”
Japan Tour
August 2024

Tour schedule

飯田人形劇フェスタ 2024 飯田文化会館大ホール

8月 2日(金) 11:30/15:15
3日(土)・4日(日) ワークショップ

札幌市こどもの劇場やまびこ座

6日(火) 19:00
7日(水) 13:30
8日(木) ワークショップ

損保ジャパン 人形劇場ひまわりホール

11日(日)・12日(月) ワークショップ※
13日(火) 19:00
14日(水) 19:00

人形劇場とらまる座

16日(金) 13:00/19:00
17日(土)・18日(日) ワークショップ

ブーク人形劇場

22日(木) 19:00
23日(金) 19:00
24日(土) 11:00/15:00
25日(日) 11:00/15:00
27日(火)・28日(水) ワークショップ※
29日(木)・30日(金) ワークショップ

※一般社団法人 全国専門人形劇団協議会の主催

Workshop

俳優技術・人形操作のワークショップ

人形のPOWER

人形劇界のスーパースター、ネヴィル・トランターによるワークショップ。

「人形の役割」「俳優の役割」の関係性

「人形の肉体言語」「人間の肉体言語」の違い

「人形」だからこそ伝わる物語

演劇空間の使い方

・・・実践を交えて学ぶ2日間連続講座。

助成：文化庁文化芸術振興費補助金

(劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核劇場・音楽堂活性化))

独立行政法人日本芸術文化振興会、

オランダ王国大使館 / Embassy of the Kingdom of the Netherlands

後援：NPO法人 日本ウニマ、日本人形劇人協会、一般社団法人日本演出者協会、

こくみん共済 coop ホール/スペース・ゼロ

“His Master's Voice / Neville Tranter”

ARTE TV Documentary, a film by Manuelle Blanc

海外でのワークショップの様子や、過去の舞台映像が満載のドキュメンタリーが公開されています。ぜひご覧下さい！



飯田に始まり、札幌、愛知、香川と駆け抜けてきた日本ツアーも、本公演で締めくくりとなります。ステージを重ねるたび、魅力が深まり違う視点を与えてくれるネヴィルの舞台。ブーク人形劇場の舞台でどんな世界が生まれるか、皆様と目の当たりに出来ることを心から嬉しく思います。

ネヴィル・トランターという巨匠は、どうしてもなく愚かで滑稽な人間という存在に対して、大きな愛情を示しながらも、同時にそのごく普通の人間がいかに容易に道を誤り、世を破滅へと導くのかということに警鐘を鳴らし続けてきました。

「わたしのユビュは良いニュースで終わる。……しかし、遅かれ早かれ、他のユビュが現れるだろう。」ネヴィルが語る言葉どおりのことが、これ以上現実世界で繰り返されないよう、私たちは世界を見続けなければならないと、そう思います。

それでは、鬼才ネヴィル・トランターの最後のステージ、『ユビュ王』。どうぞ、最後までごゆっくりとお楽しみ下さい。

2024年 夏 ブーク人形劇場

ブーク人形劇場企画製作 世界の人形劇シリーズ

Stuffed Puppet Theatre

スタッフド・パペット・シアター (オランダ)

『ユビュ王』 “UBU”

2024.8.22-25

<https://theatre.puk.jp/ubu/>

原作／アルフレッド・ジャリ

脚本、演出、美術、出演／ネヴィル・トランター

美術・技術協力／ウィム・シトヴァスト

共同制作：la Biennale MARS à l' Ouest et du

Colombier-Magnanville

Staff

日本公演スタッフ

日本語字幕：玉木暢子

照明：阿部千賀子 (第一ステージサービス)

根橋生江 (ライティング・ユニオン)

WS 通訳 (ブーク人形劇場)：アントニオ・アンゲロフ

日本ツアー通訳：石川幹洋

舞台監督：石田律子

制作：伊井治彦

チラシデザイン：柏倉瑛子

パンフレット編集：小原美紗・小柳田美子・松尾智与



ブーク人形劇場

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-12-3

tel.03-3379-0234 / fax.3370-5120

e-mail:theatre@puk.jp

<https://theatre.puk.jp/>